

中央開発（株）東北支店 伊藤 太久



今年度、初めて地質調査技士（現場技術・管理部門：地質調査コース）の資格試験を受験して無事合格することができました。合格体験記を執筆する機会を頂きましたので、自らの合格に至るまでの経緯を紹介させていただきます。

私は大学で地質学を専攻していたので、専門を活かした仕事がしたいと思いコンサル業界に入りました。2010年に入社して2年間は本社（東京）勤務でしたが、入社3年目に東北支店（仙台）勤務となりました。

本社では、活断層やジオパークなどに関わる特殊な業務を多く担当していたのですが、東北では土質調査や地すべり調査など、通常の調査業務も多く担当するようになりました。この過程で、原位置試験や室内試験についての知識の乏しさを感じるようになりました。

こうした状況のなか、入社4年目となって地質調査技士の受験資格を得たところで、上司から資格取得を勧められたこともあり、知識の習得を目的として地質調査技士の資格試験を受験することにしました。

とはいえすぐに勉強は手に付かず、試験日の1ヶ月前になってそろそろやばいぞという思いが強くなったところで、ようやく重い腰を上げて勉強を始めました。

勉強は公開されている過去問を解くことから始めました。まず前年度の選択問題を解き、分からなかったり間違ったりした問題を参考書などで調べてひと通り理解したところで、さらにその前年度の選択問題を

解く、という流れを大体過去5年分×2周行いました。

こうして、理解しきれなかったりうっかりミスしたりという問題があっても、概ね正しい解答を選択できるようになりました。

試験まで残り10日位になって、次は記述問題に取り掛かりました。

時間も限られていたので、記述問題対策は毎年出題されている経験論文に絞ることにしました。まずは問題で問われている業務の概要、課題、工夫、評価などを確実に抑えてパソコンで文章を書き、それを何度も読み返してざっくりと流れを覚えてから、解答用紙に手書きし、要点をもれなく書けることを確認して対策を終えました。

試験当日は、選択問題でこれまで見たことのない傾向の問題がいくつかあり、ちょっとした驚いたものの、全く分からないというものは多くありませんでした。

経験論文以外の記述問題も、選択問題対策で得た基本的な知識とこれまでの経験からなんとか解答することができました。

試験後は、自己採点をしなかったのでひょっとして落ちたかもしれないと思ったりして、合格発表までヒヤヒヤしていましたが、結果として合格することができました。短い期間とはいえ時間を割いて勉強したことが無駄にならず良かったです。

今後は地質調査技士の資格取得を通じて得た知識とともに経験を積み重ねながら、引き続き業務に取り組みたいと思います。